

## ハワイ大学シミュレーション研修2012

佐世保市立総合病院 内科レジデント 野中俊章

このたび、長崎 新・鳴滝塾の“ハワイ大学シミュレーション研修2012”に参加させていただきました。私自身、医師3年目で内科レジデントであり、今回救急対応のスキルアップとアメリカの医療を肌で感じることを目標に、応募させていただきました。

初めにシミュレーションというものの総論の講義を受けました。シミュレーションとは、実際にやってみるだけでなく、2倍の時間をかけて反省、検討し、そのことを他の人に教えることまで含めたものである、とのことでした。実際にその日のシミュレーションに関するミーティングを行ない、互いの班で発表、質疑応答を行ないましたが、なかなか内容の濃いミーティングであり、非常に勉強になりました。

ACLSで心肺蘇生の手順の、A (Airway : 気道確保)、B (Breath : 呼吸)、C (Circulation : 循環)に関する講義もありました。初日はA・B・Cの評価をするのに精一杯で、患者が発語できるかできないか、呼吸は保たれているか、血圧の変動はどうなったのか、といったA・B・Cの再評価までなかなか頭が回りませんでした。シミュレーション直後に、現在の患者の状態はA・B・Cのうち、どれの異常に当てはまるかなど、各講師とのディスカッションを通じて、自分の中で問題点がだんだんクリアになっていき、さらに理解が深まりました。日を経るにつれて、ABCの再評価もできるようになってきました。徐々にお互いのコミュニケーションもとれるようになり、初期対応の酸素投与、輸液路確保、モニターを忘れるケースもなくなりました。シミュレーションの内容は、アナフィラキシー、喘息発作、痙攣発作の救急対応や、意識障害、急性腹症、胸痛などの対処や鑑別を問うものなど、救急現場でのコミュニケーション以外の知識まで含まれていました。既に知っていたものから、よい復習になったもの、また日本では行なわれないもの（喘息発作にマグネシウムを投与する）まで、実に多くの知識を得ることができました。日常診療で急変時には、内科全般的な知識や救急対応が求められますが、なかなかトレーニングする機会がなく、教科書などで学習しても身につくことは難しいことが現状です。このシミュレーションを通して、救急対応を学べたことも大きな成果ですが、こういったシミュレーションを長崎で実践することで、さらに救急現場での対応の幅が広がると思いました。

英会話は、各講師が平素な文章で説明してくれ、難解な説明では、引率の宮本先生に日本語訳していただいたため、言葉の壁は出発前ほど感じませんでした。しかし、他の参加者が講師と上手に英語で話しているのをみて、英語を話せることの重要性を改めて感じ、今後も英語力を向上させていきたいと思いました。そのほかにも、気管挿管や中心静脈カテーテル挿入の講義や練習もあり、とても勉強になりました。

最後になりましたが、今回、貴重な機会を与えていただいた、新・鳴滝塾の方々に感謝いたします。



